

クワシントメタマバエ幼虫の発生活長調査に基づく適期防除の実証

(蚕試 環境部)

1. 背景とねらい

先に、圃場で立毛中の桑の頂芽を無作為に選び、ヘッドルーベ観察によるクワシントメタマバエ幼虫寄生芽の発生活長から、防除適期を簡易に把握する方法を提案した（平成6年度参考事項）。

すなわち、幼虫寄生芽数の発生活長から、前回の調査より寄生芽数が多く観察された時期を液剤による頂芽散布適期、さらに次回も増加傾向がみられた場合、その1週間以内を微粒剤F等による地表面散布適期とした。しかしながら、提案した仮説の検証はまだ実施していなかった。

そこで、幼虫寄生芽数の発生活長調査を基に、適期薬剤散布による防除の実証を現地桑園で行った。

2. 技術の内容

1) 幼虫寄生芽数の調査法

ヘッドルーベを装着し、系統抽出した立毛中の頂芽30~100芽を先細ピンセット（ステンレス製、歯科用）で静かに解剖・観察し、幼虫が寄生している頂芽数を記録する。

春切桑園では7月1日から8月11日まで、夏切桑園では7月11日から9月1日まで、半月あるいは1週間間隔で継続調査する。

2) 防除の実証

(1) 調査間隔を約1週間とし、前回の調査より幼虫寄生芽数多く観察された時期にジュンゾールV乳剤を頂芽散布したところ、高い防除効果が認められた。

(2) 地表面散布の適期と判断されても、雑草が繁茂している圃場では防除効果が期待できないので、頂芽散布で対応したが、一定の効果が認められた。

3. 指導上の留意事項

1) 抽出標本数すなわち調査芽数は、発生密度が低いときには100芽程度、高いときには30芽程度とする。

2) 浸透移行性が高く、残効性に優れるジュンゾールV乳剤は頂芽内で加害している本種幼虫に卓効を示すが、現在、桑に農業登録があるものの殆ど流通していないので、ジメトエート乳剤とDDVP乳剤を混用して調製する必要がある。ジュンゾールV乳剤1,000倍液の有効成分はジメトエート300ppm、DDVP200ppmであることから、ジメトエート43%乳剤で最終濃度1,433倍、DDVP50%乳剤で最終濃度2,500倍に調製する

4. 試験成績の概要

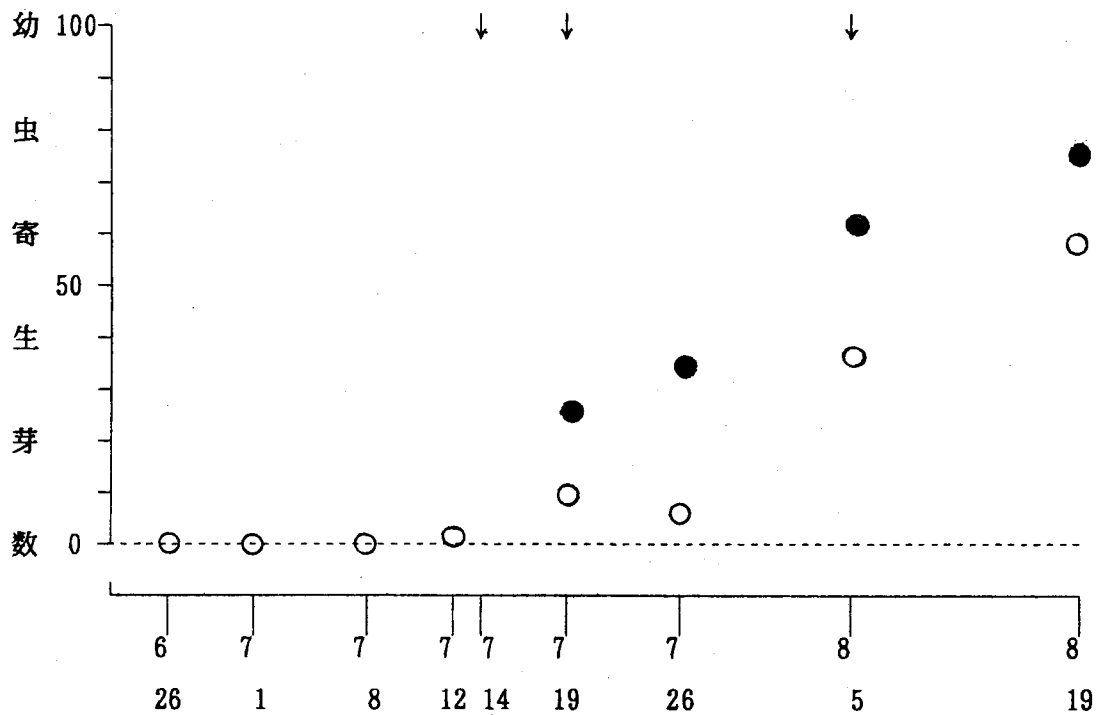


図1 クワシントメタマバエ幼虫寄生芽数の発生活消長と適期防除の実証 (1996年)

- 備考1) 供試桑園：前沢町、あおばねずみ、833株/10a、根刈仕立、1991年植付
 2) 無作為に抽出した頂芽100芽当たりの幼虫寄生芽数の発生活消長を示す。
 3) ジメトエート43%乳剤1,400倍液+DDVP50%乳剤2,400倍液混用液散布
 4) 凡例： ↓：頂芽散布 ○：散布区 ●：無散布区

表1 クワシントメタマバエ適期防除の実証と被害芽率 (1996年8月19日調査、前沢町)

区	調査芽数	被害芽数	健全芽数	被害芽率	防除価
散布	314 芽	70 芽	244 芽	22.3 %	72
無散布	385	309	76	80.3	-